

イオンモール仙台上杉において学生・教員による防災施設視察を行いました (2026/6/24)

テーマ：イオン防災環境都市創生共同研究部門、災害科学、共同研究、防災施設
会 場：イオンモール仙台上杉（仙台市青葉区堤通雨宮町1-1）

2026年6月24日（水）、仙台市青葉区のイオンモール仙台上杉において、当研究所に所属する学生及び教員・職員 25 名による防災設備の現地視察を行いました。これは、当研究所のイオン防災環境都市創生共同研究部門におけるイオンモール株式会社・公益財団法人イオン環境財団と東北大学災害科学国際研究所との共同研究の一環として行ったものです。

この共同研究では、東北大学の学生の参加も重要な活動として位置付けています。そのため、当研究所の学生およびその指導に当たる教員、支援職員の参加希望を募り、大型商業施設の見学会を実施しました。整備されている防災施設や対応体制への理解を深めてもらったうえで、参加者からの感想や質問を通じて現状の評価を把握し、今後の研究に活かすことが目的です。今回の視察に教員では、今村文彦教授（津波工学研究分野）、奥村誠教授（レジリエンス計画研究分野）、御手洗潤特任教授（空間デザイン戦略研究分野）、小森大輔特任教授（水災害リスク研究分野）、新家杏奈助教（イオン防災環境都市創生共同研究部門）、齋藤由美子助手（上廣防災学寄附研究部門）が参加しました。

当日は、イオンモール仙台上杉の施設内に設置されている非常用発電設備、太陽光発電設備、マンホールトイレ、受水槽非常用水栓等の設備、備蓄倉庫、敷地内の広場に設置されたテント機能付きパーゴラおよびソーラー蓄電池等を視察しました。特にマンホールトイレは、商業施設で10箇所も設置している例は珍しく、周辺地域からも高い関心が寄せられています。参加者はマンホール上に置かれるテントへ実際に入ることによって、災害時の使用方法や使用感覚を確かめる貴重な機会となりました。さらに、本学が旧制中学などの歴史を繋ぐ施設や石碑も見学しました。視察の最後には、イオンモール仙台上杉の防災・施設担当者を交え、防災施設の設置の考え方、維持管理のあり方、地域住民や周辺施設との連携など、幅広いテーマで熱心な質疑応答や意見交換が行われました。

当部門では、今回の学生らによる商業施設の防災機能への感想や評価を踏まえながら、イオンモール仙台上杉における顧客や周辺地域へのより有効な防災のあり方、さらにはそれを含む周辺地域との防災、環境、地域連携等の研究を積極的に進めていく予定です。



屋上の太陽光発電設備の視察



広場のテント機能付きパーゴラの視察

文責：丸谷浩明、新家杏奈（イオン防災環境都市創生共同研究部門）